

手をつなぐ

題字 藤本利夫書

〈1988年7月9日創刊〉
 発行2018年11月1日 〈毎月1日発行〉
滋賀県民主教育研究所
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目
 11-3 教育文化会館2F
 TEL & FAX 077-525-5364
 教育110番 077-523-3715
 eメールshiga.minken@gmail.com
 HP: http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

化かわれまい

中西 祐男 (元中学校教員)

お盆に帰省する孫娘の絵本を探していたら「せかいでいちばんつよい国」というタイトルが目についた。

表紙の絵は、王様を先頭に鉄砲担いで隊列を組み、勇ましく行進する軍隊。思わずして老いた頭に血が上る。「村度もここまで来たのか」と暗澹たる気持ちで手に取ってみた。案の定、強大国の王が軍事力で世界を征服していくストーリーだ。

が、私の浅はかな予想を超えて、物語は意外な方向に進んでいく。最後に残った、軍隊を持たない最弱小国に攻め込んだとき、王も兵隊たちも大歓迎されてしまう。そして戦わずして最強国の国民を平和に導いた弱小国こそが一番強い国だったという結末だ。(デビッドマツキー作)

就学前の孫娘は「難しくてわからない」といい、息子たちはあり得ない話だと相手にしてくれない。それでも、この絵本にであつたことで幾

分ホツとした。

最近まで知らなかったが、父は蝶々蜻蛉の類いで、1937年秋から対中戦争(支那事変)の兵站を担うため大陸へ送られ、上海から南京・徐州・蘇州他をへて1939年に復員した。部隊の記念誌に南京大虐殺の画像は当然掲載されていないが、臭う部分も写されている。

父のアルバムを開くと、織維会社に復職後、東京支社で野球チームを作った。野球の写真は1941年を最後に消え、かわりに同僚の出征写真が増えてくる。1942年からは東亜航空電機という軍需産業に関わっていたようだ。1944年には私が生まれ、滋賀へ帰ったものの、敗戦二ヶ月前に再度応召され、戦後の混乱期に母と私を残して三十代で死んだ。

中学入学前後、母は空襲体験を語り、「父は犬死に」と恨みがましく

独り言ちた。その年の末、母も、父の後を追った。

最近、現職時に両親の戦争体験を掘り下げていなかったことを悔いることが多くなった。

空疎な言葉で臆面もなくバレバレの嘘をつく妖怪の孫とお仲間たちが虎の威を借る狐よろしく、「問答無用」とデタラメのし放題。教育勅語の亡霊がうごめく昨今、明治維新五十年や日本スゴイにイイネと応じていてはそれこそ裸の王様にされてしまう。後期高齢者こそが「枯れず」に語らねばと思う。

(なかにし さちお)



《 今月の紙面 》

- ・「巻頭言」/中西祐男.....P1
- ・国民学校で絵日記(学級日誌)を指導-西川綾子に学ぶ/八耳文之.....P2・3
- ・現実を知り、現実をとらえ、考える力を子どもたちに/川本治雄・P4・5
- ・【部会報告】新学習指導要領で『公民』はどう変わるか/中等教育部会.....P6・7
- ・【今学校で】一喜一憂の全員リレー/木田圭.....P8